

年頭の辞

新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会
会長 金武 直幸

新年明けましておめでとうございます。本年も会員皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

さて、デフレ脱却から過剰気味な円安へと揺れ動き、景気回復も思ったように進まず先行き不透明な経済状況が続いています。一方、大学では、文部科学省から大学改革プランが示されて工学のミッション再定義の下、大学改革の具体的な議論が進められています。このような中、本会を取り巻く環境は本年も激動することが予想されます。一昨年に本会会長を拝命して以来、軽金属に関するオンリーワンの学会を名実ともに強化して次の時代に繋いでいくための取組みについて、理事会や委員会で議論を進めてきました。その方向性としては、素材の開発製造から二次加工および材料ユーザーの観点まで、軽金属の上流から下流までをカバーできる学会として社会に認められることです。昨年までに、活動基盤の増強、新規事業の企画について各委員会で様々な検討提案がなされ、徐々に実施に移されてきました。本年は、それらの新規活動を定着させて、次期の理事会メンバーに確実に引き継ぎたいと考えております。

会員基盤の増強、特に維持会員の増強を目指して、一昨年から検討を進めてきました中堅企業支援プログラムを開始しました。全国に広がる関連中堅企業に積極的に情報発信し、本会の活動を理解してもらい、活動に参加してもらうのが狙いです。支部役員や地方公設機関の協力を得て、無料講習会など中堅企業の技術者に技術情報を提供し情報交換する場の企画実施を始めました。各支部からの積極的な働きかけによって、昨年の活動開始からすでに7社の維持会員加入を得ております。また、維持会員を対象とした技術相談室を開設して、軽金属の技術課題に関するきめ細かい対応ができるようにしました。本年は、これらの活動をさらに広く展開したいと考えています。

春秋の講演大会では、軽金属の上流から下流まで広い技術分野をカバーするプログラムを構成できるように、セッション分類の見直しを行いました。講演大会のプログラムを見ればその学会の活動範囲や活力がわかると言っても過言ではありませんし、国内外に本会の活動をアピールする貴重な情報です。引き続き会員の声を参考に、よりよいセッション分類を目指した検討を継続します。また、研究部会との連携によるテーマセッションの充実、企業交流会における展示・講演など、会員への情報発信の場を増加させたいと考えています。さらに、他学会の協賛による講演大会の相互乗り入れを実現し、幅広い技術観点での研究討論ができるようなシステム作りを考えて、講演大会を魅力ある行事に拡充したいと思います。

厚さが薄くなったとの声が聞かれていた学会誌「軽金属」について、昨年から会報記事の充実を目指して、会員自慢の写真紹介「私の一枚」や維持会員の紹介記事の掲載を開始し、今年は「年間レビュー」や新連載講座の掲載を予定しています。論文投稿数を増やすために、著者の会員資格の要件緩和や第一著者が学生の場合の投稿掲載料無料化を実施し、会員からの論文投稿の増加を期待しています。通称「青本」と呼ばれている「アルミニウムの組織と性質」をPDF化して販売を始めました。すでに当初目標以上の販売数になっていますが、さらに多くの会員の座右の書となることを期待します。また、従来からビデオ録画していたセミナー講義をDVD（全7巻）として整理し、企業の新人教育などに貸出しを始めました。是非ご利用ください。

研究部会は、関連学術分野の最新課題・将来課題を共同で研究討論する重要な事業であり、将来の軽金属分野の発展に大いに寄与することが期待されます。研究部会の活動内容は会員に広く情報発信されることが望ましいと考えますので、講演大会のテーマセッションなどを利用して情報共有できるようにします。現在活動中の9部会の多くが今年度末で終了する予定であり、それらに代わる新しい研究部会のあり方について研究委員会のWGで議論いただきました。本年は、その議論を基に新しい研究部会を順次新設して、将来の軽金属を見据えた活動が始まる予定です。

最後に、国内外での交流について、数年前に本会が呼びかけて、日本、台湾、韓国、中国、オーストラリアの5地域での交流が始まり、2012年にALMA（Asian Light Metals Association）が立ちあがり日本が幹事国として活動を主導してきました。昨年秋には日本でALMA Forum 2014を開催しましたが、引き続き本会が中心にこの地域の交流活動を推進する考えです。また、国内の他の学協会や関連業界団体との交流についても、前出の講演大会相互乗り入れのほか、企画行事などでの具体的な協力の場を模索したいと考えます。

軽金属の上流から下流まで広い範囲をカバーできるよう学会基盤を強固にし、社会が軽金属学会に何を求めているかを迅速に見極め、発信して、本会のプレゼンスの向上を図ることが必要です。そのために、本年も先頭に立って取り組んでいく所存でございますので、会員の皆様の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。